

— 回想 —

Still Live 〈スタイル リブ……まだ生きている〉

(2組) 中尾 佐之吉

1) まえがき

山本七平著「下級将校の見た帝国陸軍」の中で、太平洋戦争の末期フィリピン戦線が戦争終結となり、米軍に投降して知りあった米軍軍曹が「戦場の時計はチクタクと時を刻まず、still live スタイル リブと時を刻むと言っていた」という記事があった。この場合のスタイル リブ・スタイル リブという時計の音は心臓の鼓動と同じでもあって、近づく死の足音とも言える音であったとある。

2) 私にとっての still live の意味

大正6年(1917年)3月生まれの私は、現在満85才である。そしてこの still live (まだ生きている)ということばが思いだされる。だが私のスタイル リブは、前述の著書に出てくる「スタイル リブ」ということばの中身とは正反対で、「まだ生きさせてもらってありがとう」という気持ちをこめてつかわれてもらいたいのだ。

私の名前は私の生まれる前年に亡くなった曾祖父の名前をそっくりもらって「佐之吉」とつけられた。私の父の名前の「良一」に比べ古くさい名前なので、若いときはコンプレックスを感じたこともあるが、親としてみれば初代「佐之吉」が81才も永生きしたし、人柄もよかったので曾祖父にあやかって、永生きしてほしいとの願いをこめての命名であったのだろう。しかし生まれたときは手のひらに乗るほど小さく、とても育つようには思えなかったらしい。しかし、この死線はどうにか越えることができた。ところが、幼児の頃二度も家の裏の用水路へ落ち込む。最初は直ぐ発見されて助かったが、二度目は道をとおりかかった隣りむらの方が見つけてくださり、引き上げてもらったのだが、私は意識を失っており、もう数分間もおくれているら助からなかっただろうと聞かされた。また、5才の頃には赤痢かチブスの大病を患い、1ヵ月くらい生死の境におかれたこともあった。

その後は大病を患うこともなく中年を向えたが、41才のとき思いもよらぬ咯血をする。肺結核なのだ。近くの結核予防会附属病院(御南中学校南の「健康づくり財団附属病院」のところ)へ即刻入院する。幸い特效薬のストレプトマイシンが保険で認めれた時世だったので、1年半の入院で完治した。その後はおかげで健康に恵まれ今日に至っている。

3) 永生きできたことへの感謝とさらなるお願い

私の父は68才、母は76才で亡くなっているわけだから、私は両親よりもずっと永生きできたし、長命だった曾祖父よりも長寿に恵まれた。このことは私自身の努力というより、幼児のとき助けていただいた方はもとより、隣人の皆さまのご援助の賜であることは申すまでもなく、社会全体のお陰をうけてのことである。そして、このことをつねに感謝しながら、少しでもご恩返しをしなければと自分自身に言いかけしているの

だが、申し訳ないことに、もうすでにボケ老人の仲間入りをするようになっては、さらに皆さんの厄介者になることは必定、今後もお見捨てなくよろしくとお願い申しあげるのがせい一杯である。

つぎに、参考のため乳児と結核の死亡率の推移を調べたものを掲示するが、いずれもその死亡率が極度に減少していきまさらながら驚く。

年次	乳児死亡率(註1000人対)				結核死亡率(人口10万人対)			
	大.9 1920	昭.25 1950	昭.45 1970	平.12 2000	昭.25 1950	昭.50 1975	昭.60 1985	平.11 1999
死亡率(人)	165.7	60.1	13.1	3.2	146.4 ①	9.5 ⑩	3.9 ⑯	2.3 ㉑

注：○印内の数値は死因順位で、50年前は死因のトップ、今は21位。

最後に、80才以上の高齢者が全人口のなかでどの程度の割合かを調べてみた。たまたま明治19年(1886年)当時の岡山県の数字が参考書にあったので、それと比較しながらのデータをつぎに掲げる。

年次	地区	全人口	人口のうち 80歳以上人口	80歳以上人口の人口比(%)		
				男	女	計
明.19(1886)	岡山県	1,051,561 ^A	7,070 ^A	?	?	0.67
平.11(1999)	全国	126,686 ^{TA}	4,572 ^{TA}	1.16	2.45	3.61
平.12(2000)	岡山県	1,949 ^{TA}	99 ^{TA}	?	?	5.08
平.11(1999)	岡山市	618,172 ^A	21,809 ^A	1.11	2.42	3.53
平.11(1999)	岡市・灘・西区	21,673 ^A	357 ^A	0.52	1.13	1.65

上表で御南・西学区の高齢者の比率が低いのは、この地方が新興住宅地域で若者の流入が多いためと思われる。それにしても昔に比べて高齢者は年々増えつづけている。別のデータによると、全国で平成12年(2000年)に65才以上は全人口の17.2%だったのが(岡山県の平成6年の数字では16.9%だ)、25年先(2025年)には27.4%に増加すると推計されている。こどもの出生率の低下に反比例して老人層人口が急増すると知らされると永生きできることはありがたいが、より多くの老人の面倒をみなければならぬこれからの若者の負担が思いやられる。

★ ☆ ★ ☆ ★ ラジオ体操のご案内

今年も夏休中のラジオ体操を下記の日程で実施します。例年、幼児・保護者・老人会などから、多数の方々の参加をいただいておりますが、今年もなにとぞよろしくお願いいたします。(田中野田子ども会育成会)

期 日：7月22日(月)～26日(金)、29日(月)～31日(水)

8月19日(月)～23日(金)

時 間：午前6時25分 集合

場 所：田中野田1号公園 (田中水門北側)

虫のはなし(8)

毒のある虫

(8組) 平尾 重太郎

毛虫を見るとゾッとする人が多い。幼虫時代のあの見にくい毛虫とは違ってかわって、成虫になると誰にも好かれる、きれいで可愛らしい蝶や蛾になるものもある。この嫌われ者の毛虫のなかには、毒をもっているのがおるので、ことさら嫌われる。幼児が毛虫にさわろうとすると、「刺されるよ!」と、お母さんが注意しているのをよく見かける。しかし、どの毛虫も毒をもっているのではないが、やはり「危うきに近寄らず」さわらないほうが無難である。

これからの季節夏から秋にかけては毒虫が多い。誰もが刺された経験のあるのが、果樹や庭木に発生するイラガ類(刺蛾)の幼虫である。わが家の生垣ベニカナメには、7月と9月にヒロヘリアオイラガ(写真：群生中の幼虫で、成長すると2.5cm)が発生するが、初期の幼虫が群生中でまだ分散しないうちに、私はゴム手袋をはめてつぶすことにしている。

イラガは数種いるが、どの種類の幼虫も一見毒々しく見える。虫にさわって「チカッ」として、焼けるようなあの痛みである。イラガの幼虫



は体にある刺毛で刺して毒液を注射するので、刺されると飛び上がるほどの痛みが走り赤くなってハレるが、ハレはその部分だけで、体全体がどうかなるのではない。このように激痛ではあるが、治りは意外に早く、ジッと我慢しておればよい。

毛虫のなかで毒がひどいのが、ドクガ(毒蛾)の幼虫である。これは刺すのではなく、皮膚を這っただけでその部分が発疹したようになる。そして痛みはないが、あとからその部分がかゆくなる。ドクガは体の背面に多数の小さい毒針をもっており、これが人の皮膚に触れると、その毒によって発疹する。ドクガは成虫も人を刺す。体には刺毛が多く生えていて、けばけばしく感じるのもとてもさわわる気にはなれない。成虫は黄色で体長は2.5cm位、お尻には長さ0.1cmの毒針毛が多数あり、この中に毒液が入っている。

成虫は夏の夜灯火へ飛んでくる。電灯の付近で暴れたり、それを追い払おうとすると、体から毒針毛をはがれ落ちて人の皮膚に突き刺さる。そこをこすると毒液が注入されて赤くハレ、かゆみが発生してじんま疹のような激しい皮膚炎を起こす。したがって、毒針毛が突き刺さったと思ったら、決してこすってはいけません。セロテープを切って当てて刺さった毒針毛を抜き取り、そのあと大事をとって、皮膚炎防止のため抗ヒスタミン剤の軟膏を塗っておくとよい。

なお、電灯であばれる成虫から、鱗粉(りんぷん)が多数飛び散って気味が悪いが、これに毒はない。しかし、特異体質の人はぜん息などのアレルギー症状を起こすことがあるので、注意が必要である。